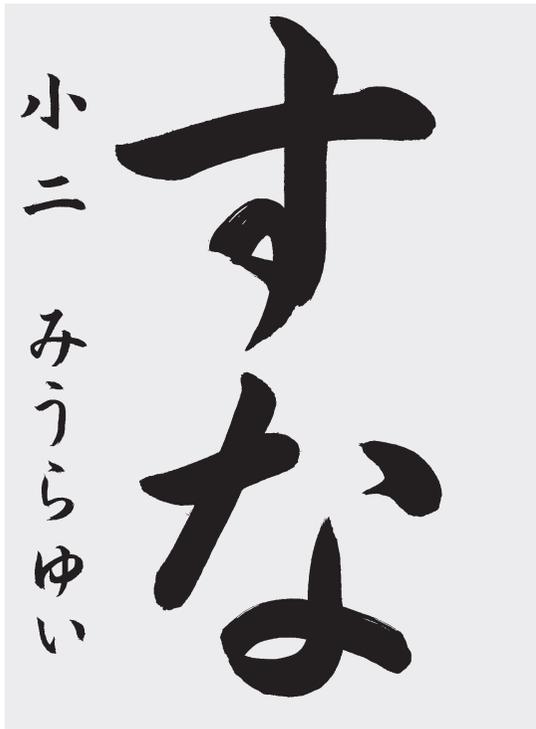


〔4月6日締切課題〕 作品に「学年」と自分の「氏名」を本人が書く。

★4月6日締切課題は、一学年上の手本を書いて出品して下さい。

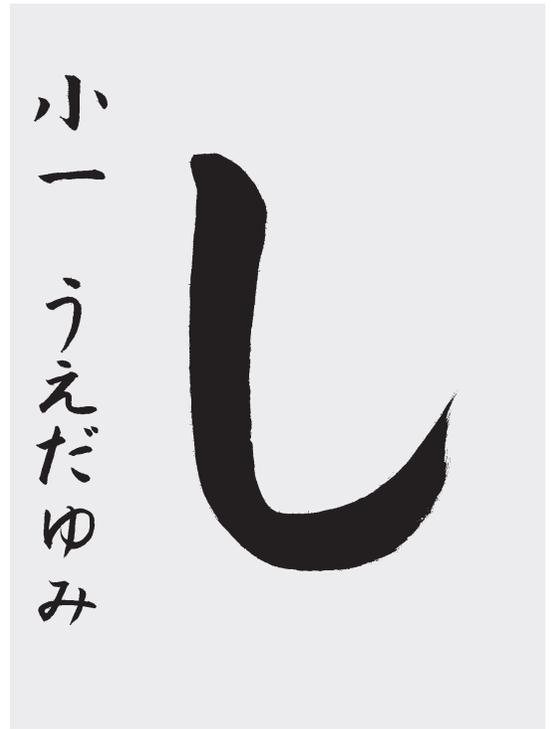
(幼・小1の方は、学年を書かなくてもよい。)

小学2年参考手本

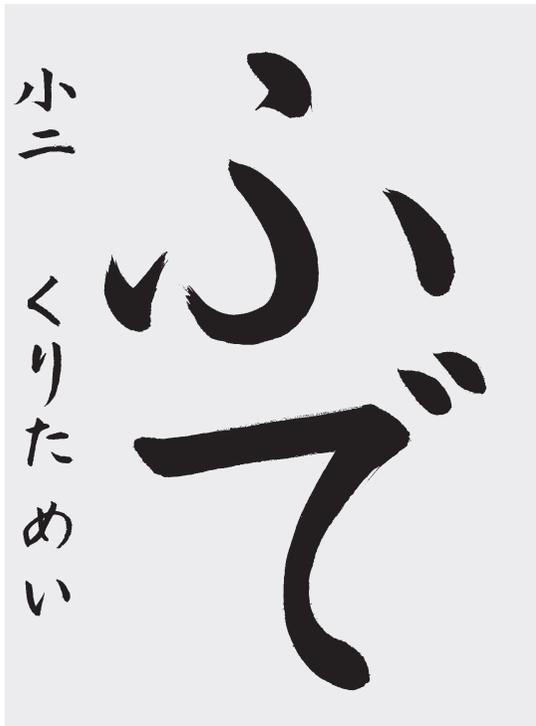


岩垣若翠先生

幼・小学1年参考手本



北村白琉先生



稲垣小燕先生



寺尾京華先生

〔4月6日締切課題〕 作品に「学年」と自分の「氏名」を本人が書く。

★4月6日締切課題は、一学年上の手本を書いて出品して下さい。

小学4年参考手本

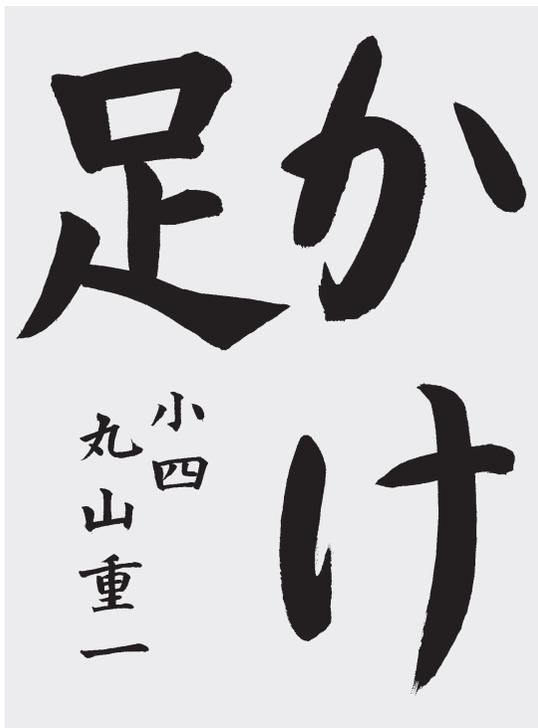


前田 龍雲 先生

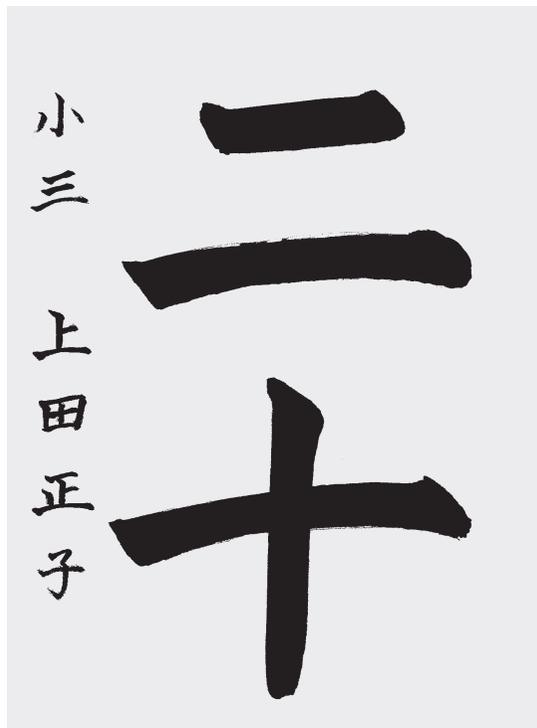
小学3年参考手本



川島 舟錦 先生



広瀬 舟雲 先生



小林 琴水 先生

〔4月6日締切課題〕 作品に「学年」と自分の「氏名」を本人が書く。

★4月6日締切課題は、一学年上の手本を書いて出品して下さい。

小学6年参考手本



大内 熒軒 先生

小学5年参考手本



名越 蒼竹 先生



辻元 大雲 先生



小竹 石雲 先生

〔4月6日締切課題〕 作品に「学年」と自分の「氏名」を本人が書く。

★4月6日締切課題は、一学年上の手本を書いて出品して下さい。

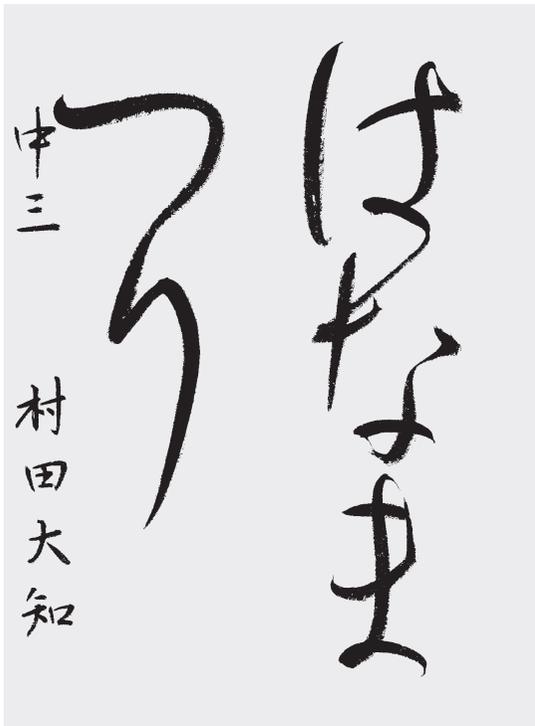
中学全学年参考手本（中学生は、どの課題を書いてもかまいません。）



大平 邑峰 先生



佐藤 菜扇 先生



下谷 洋子 先生



種谷 萬城 先生

毛筆参考手本解説(1)

活字と手書き文字の違いに気をつけて書きましよう。
ゴシック体(ゴ)・明朝体(明)・教科書体(教)・HGP行書体(H)

1年

ひろく



《ひげん》

之之くく

し(ゴ) し(明)



く(ゴ) く(明)

く(教)

ひろく

《ひげん》

久々くく 川川くく

くつ(ゴ) くつ(明) くつ(教)

2年

つながる

きもちで



《ひげん》

奈奈なな

つながるきもちで

点の位置に注意

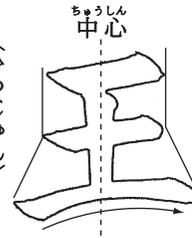


《ひげん》

不不ふふ 天々てて

ふで(ゴ) ふで(明) ふで(教)

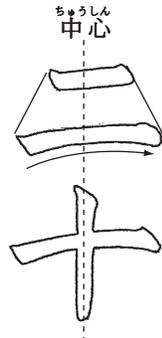
3年



《ひつじゅん》

一丁千王

王(ゴ) 王(明) 王(教)



《ひつじゅん》

一十

一十

二十(ゴ) 二十(明) 二十(教)

《許谷》

十(止)

4年

※筆順に注意して下さい



《筆順》

一ナ左左左

ノナオ右右



《字源》

加加かか

計計計け

《筆順》

一ロ甲

甲足足

5年

わずかに出す



《許谷》

木(は)ね

木(は)ね

一十才木

一オオオ木材



《字源》

加加かか

末末末ま

衣衣衣え

《筆順》

毛筆参考手本解説(2)

6年

マは小さく

中心
予防

予防(ゴ)

〔許容〕

方向(方)

予防(明)

予防(教)

〔筆順〕

マ マ マ 予

マ マ マ 予 防 防

中心
ユネ
ユネ
ユネ

ユネスコ(ゴ)

ユネスコ(明)

ユネスコ(教)

〔字源〕

由由ユ

祢ネ

須須ス

乙コ

中学

メは小さく中心に

中心
希望

希望(ゴ)

〔筆順〕

希望(明)

希望(教)

ナセ切切望望

長く

月はやや
右に傾ける

※許容で
書いています

〔許容〕

先手
必勝

先手必勝(ゴ)

先手必勝(明)

先手必勝(教)

〔許容〕

はなす

月

尖。とめ

※許容で書いて
います

〔筆順〕

ノ、ハ、生、先、先

一、二、三、手

、ソ、又、必、必

月、月、月、月、勝

点から点の連続

つながる
気持ちで

満
桜開

点画の省略

〔筆順〕

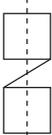
一、二、三、満、満、満、満

月、門、門、開、開

オ、ガ、サ、桜、桜、桜

はなす
つら

△はつき返すところ
字を続けて書くこと
を連続という。



上の字と下の字の中心を
通すようにして続ける。

ひらがなの字源 (413)

り	つ	ま	な	は	字源	字形
利	川	末	奈	波		
あり	の	ま	な	は		
り	つ	ま	な	は		

※字源については、異字体から変遷したものに*印を付して()にその字体を記した。
※字形は古筆から抽出した。上段には字源に近い草仮名を配し、中・下段にはその変遷過程等を配した。

「国語科書写の理論と実践」
全国大学書写書道教育学会編より転載

〔4月6日締切課題〕 作品に「学年」と自分の「氏名」を本人が書く。

★4月6日締切課題は、一学年上の手本を書いて出品して下さい。

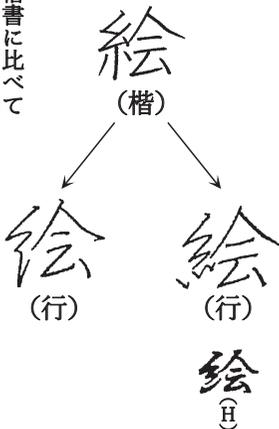
中学生（行書）

中学生（楷書）

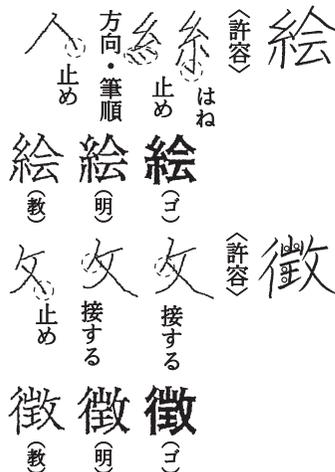
支 部 名	東洋の絵の特徴である。 書き加えたものを画賛という。これは 絵の上部や余白に言葉や文章を
段・級	
学 年	
名 前	
名 前	

支 部 名	東洋の絵の特徴である。 書き加えたものを画賛という。これは 絵の上部や余白に言葉や文章を
段・級	
学 年	
名 前	
名 前	

楷書に比べて
点画の形が変わった
部分を理解する



・行書のワンポイントアドバイス
糸（いとへん）の行書



中心
絵の上部や余白に言葉や

字の中心がゆがまないように書きましょう。

これからの作品締切日と課題

令和8年5月号～9月号までの作品締切日と毛筆課題

中学生 (全学年共通)		小6	小5	小4	小3	小2	幼・小1	締切日	
緑の草原	条約	新緑	金銀	白馬	米	あお	い	5月6日	5月
のほり	完全無欠	輝く	竹笛	作文	友人	エコ	てん		
三保の松原	新風	労働	風景	学校	小川	みらい	た	6月8日	6月
しみず	品行方正	風立ちぬ	早起き	ローマ字	子ねこ	メモ	かわ		
星に願いを	答案	祭典	一直線	元氣	ペン	のぞみ	あ	7月5日	7月
くものみね	用意周到	記録達成	登山	自由	大きい	はい	いま		
次代を担う	自在	未来社会	山の日	実行	力もち	こおり	そ	8月3日	8月
<small>荒海や佐渡に横たふ天の川</small>	粉骨碎身	道路	湖水	魚つり	石だん	へちま	もの		
夕映えの富士	名月	正倉院	開始	林道	田んぼ	ひろば	る	9月7日	9月
もみじがり	前代未聞	祝日	国民の飛ぶ	金メダル	秋	ねがい	つき		

5月号の硬筆課題 ※硬筆課題は、翌月課題のみ掲載しております。

幼・小1

う	み
れ	ん
し	な
い	と
な	も
	だ
	ち

小2

生	学
か	んだ
し	ポ
ま	イ
し	ン
ま	ト
し	を
ょ	

小3

黄	野
色	原
の	の
じ	タ
ゅ	ン
う	ポ
た	ポ
ん	は

小4

に	か	け
公	直	ん
園	り	か
で	し	し
遊	て	た
び	、	相
ま	い	手
し	っ	と
ました	し	な
	よ	

小5

想	に	記
を	は	事
書	り	を
き	、	切
ま	横	り
ま	に	ぬ
し	意	き
た	見	台
	や	紙
	感	

小6

を	友	北
え	達	九
が	へ	州
き	の	へ
ま	手	転
し	紙	校
た	に	し
	似	た
	顔	お
	絵	

中学生

北	ヨ
回	ー
り	ロ
が	ッ
最	パ
短	へ
ル	行
ー	く
ト	直
で	行
あ	便
っ	が
た	な
	か
	の

書写を知り 学び楽しむ



広瀬舟雲先生

講師の広瀬舟雲先生は、武蔵野大学教育学部教育学科・教授、全国大学書写書道教育学会副理事長、(公財)書道芸術院評議員です。著書に「刻された書と石の記憶」、共著に「国語科書写の理論と実践」などがあります。

第109回 硯の部分の名称について

「陸」という漢字の「訓読み」は？ と尋ねると、「りく」と答える人が多いと思います。ところが「りく」は「音読み」であって、「訓読み」は「おか」なのです。しかし、ややこしいことに現在の小学校では、この訓読みは、はずされ学習しないことになっているのです。なぜでしょう。これは「おか」という読みをここに入れると同音で意味の近い「岡・丘」との違いは？ という混乱を避けるためなのではないかと思われ

れます。「りく」は、「地球の表面で水の覆われていないところ」、「おか」は、「小高くなった土地」のことを指します。陸という漢字の訓読みとして「おか」を入れてしまうと、確かに小学生では少し難しいかもしれませんが。

墨を磨る場所は、墨を貯める場所より、少し高く平らになっています。硯の墨を貯める部分を「海・池・墨池・硯池・硯沼」と呼んでいます。

硯の墨を磨る部分を「おか・墨堂」中には「りく」という人もいます。墨を磨る場所は、今日いろいろなと表記されていますのでこれらを次に記すと、「①岡、②丘、③陸、④墨堂」となりますが、①②③は、すべて「おか」と読むのが正しいのです。「海」の対義語は「陸」ですので、硯の墨を磨るための小高い場所は、漢字で書けば、「陸」であっていますが、読み方としては「おか」でした。この「おか」という読みの方が、

誰でも「おか」と読むことができる漢字の「岡」と「丘」に変わっていったと考えます。さらに、今日では「陸」字は、小学校で学習する読み方は「りく」のみなので、これも加わって、多くの呼び名が登場し、今日に至ったものと考えます。

なぜ呼び名がたくさん存在するのか。どれを用いるのがいいのか。と、不思議に思い、私なりに系統立てて整理してみました。すると面白いことが分かったのです。

- 墨を貯める部分を書道の専門用語で「墨池」とすると、磨る部分は「墨堂」

- 墨を貯める部分を一般の人にも分かり易い「海」とすると、磨る部分は「陸(おか)」↓「おか」と誰でも読める漢字の「岡・丘」も用いられるようになり、読み方の方で「陸(りく)」も加わった。といえるのではないのでしょうか。

今日では、どれも間違いとはいえませんが、強いて挙げるならば、私は意味的に小高い場所を指す「おか」という平仮名表記か、漢字では「海」の対義語の「陸」がよいのではと考えます。ちなみに、硯の海と陸の間の勾配のある場所を「落潮」といいます。「潮」とは、「海の水」のことであり、磨った墨を潮にたとえるとは、とても雅びですね。

第 77 回 全 国 学 生 書 道 展
 「学生展指導者作品展」役員作品



「雪の玉水」

運営委員長

下谷 洋子



「烟嵐」

顧問・名誉会員 辻元 大雲



「山頭火句」

実行副委員長

千葉 蒼玄



「馬」

実行委員長 小竹 石雲

書道芸術学生版 春季昇段級試験規定

・毛筆
・硬筆

一、しめきり日 5月6日(水)

一、発表 表 5月下旬

毛筆の部

一、課題

○試験は次の課題文字による。

幼・小学校一年生 いろ(かいしよ)

〃 二年生 はる(かいしよ)

〃 三年生 中立(かいしよ)

〃 四年生 名言(かいしよ)

〃 五年生 足音(かいしよ)

〃 六年生 出発(かいしよ)

中学校一年生 成長(楷書か行書)

〃 二年生 筆法(楷書か行書)

〃 三年生 進路(楷書か行書)

一、受験料 各部一点 六〇〇円

毛筆
硬筆 } 共 一人一点

○受験料は、指定の振替用紙で締切日までに送金のこと。

一、書 体

○小学生は楷書(かいしよ)

○中学生は楷書または行書

一、清書には、「学年」「氏名」を受験生本人

が毛筆で書く。(幼・小一の方は、学

年を書かなくてもよい)

一、受験票

応募書類と同送される段級が印字された「昇段級試験用」バーコード出品券を清書の右下にしっかりと貼付する。

(毛筆・硬筆共)

のりしろ	
神田 書道 太郎	
	1級
① 昇試 (5月6日締切)	
① 毛筆	
神田 小1	
書道 太郎	
1級	
	1013021200013

○応募書類は4月下旬に6月号といっ

しよに、受験番号を記入した応募書

類と「昇段級試験用」バーコード出

品券を送付します。

○毛筆・硬筆とも左図のように記入して出品する。

作品中央下に赤字で団体番号を記入する。

一年	い	ろ	〇〇〇〇
しよどう			
たろう			
			↑
			例 1001
			団体番号
			

※5月号の購読部数を越える受験はできません。

小学 3 年



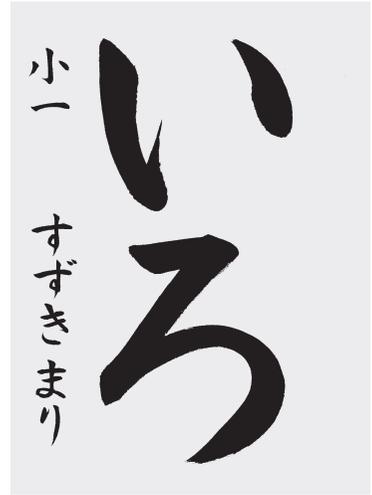
広瀬舟雲先生

小学 2 年



川島舟錦先生

幼・小学 1 年



大平邑峰先生

小学 6 年



広瀬舟雲先生

小学 5 年



川島舟錦先生

小学 4 年



大平邑峰先生

中学 3 年

中学 2 年

中学 1 年

楷
書



小竹石雲先生

種谷萬城先生

名越蒼竹先生



行
書

小竹石雲先生

種谷萬城先生

名越蒼竹先生

硬筆の部

一、くわしい規定は、「毛筆」と同じです。

一、用紙は、本院指定のものを使用するか、もしくは指定の用紙をコピーして、原紙の大きさにあわせて切って出品する。○学年相当の用紙で書く。

一、「空欄」。「」も正しく書く。

一、課題

幼・小学 1 年

支部名		えんそく	えがおで
段・級			
学年	一		
名前	小山りょう		

小学 2 年

支部名		きま	一
段・級		した。	年
学年	二		生
名前	大谷新一		が
			入
			学
			し
			て

一、清書には、「学年」「氏名」を受験生本人が書く。
 一、幼・小一の方は学年を書かなくてよい。

支局、支部名は、本人が書けない場合はゴム印でもよい。
 一、受験票は、応募書類と同送される段級が印字された「昇段級試験用」バーコード出品券を清書の右下にしっかりと貼付する。

※5月号の購読部数を越える受験はできません。

小学 3 年

支部名		朝食を	今日は
段・級		とり	ゆっ
学年	三	ました。	くり
名前	川島小春		

小学 4 年

支部名		ま	は	こ
段・級		っ	昔	と
学年	四	て	の	わ
名前	日浅希音	い	人	ざ
		ま	の	や
		す。	ち	か
			え	く
			が	言
			つ	に

幼・1年

い
はたみくり

てん
小一 さとうゆうこ

2年

あお
小二 白川みかさ

エゴ
小二 いしいたろう

3年

米
小三 上田元子

友人
小三 あへしおん

4年

白馬
小四 森いずみ

作文
小四 山本あつき

5年

金銀
小五 花田美咲

竹笛
小五 青木英子

6年

新緑
小六 青木達二

いのちの輝
小六 上田友子

中学

条約
中一 山田道子

完全無欠
中二 江川和子

緑の草原
中二 田中小春

こいのぼり
中三 上村香

編集余録

○今月号（4月号）から新しい学年の課題になります。間違えないように注意してください。

○第77回全国学生書道展が開催されました。今回も大変多くの方に「ご参観いただきました。皆様のご協力に感謝申し上げます。今月号に大賞、準大賞の受賞作品を掲載しましたのでどうぞご覧ください。

○春季昇段級試験の出品規定と毛筆・硬筆の参考手本を掲載しました。是非参考にしてください。締め切りは5月6日（水）です。

○先月号と今月号（37ページ）に「硬筆の持ち方」を載せました。皆さん正しい鉛筆の持ち方で書いていますか。持ち方はとても大切です。鉛筆を正しく持つと色々なメリットがあります。まず、鉛筆をしっかりコントロールできるようにするので、文字のトメ、ハネ、ハライがきちんとできるのでようになります。また、正しく持つことで、姿勢も良くなり、手、指や肩などに過度な力みがかなくなるので、長時間書き続けても疲れにくくなります。さらに、鉛筆を動かしやすくなるので、流れよく、スムーズに文字を書けるようになります。鉛筆の持ち方はお箸の持ち方と同様に、変な癖がついてしまうと、なかなか直りにくいものです。正しい持ち方をマスターして書いてください。

（悠輝）